常世に落ちた果実

太@眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

常世に落ちた果実

【Ｎコード】

Ｎ３３３６Ｐ

【作者名】

太@眼鏡

【あらすじ】

。。。。。。。。。。。。。

葉と葉の隙間から射し込まれる光が私の足元を照らしている。
ここは森の中。
積み重ねられた幾つもの生命、もしくはそうでったモノ。それが森には多い。　形を留められたモノの少なさからか、流れた膨大な時間を私に感じさせる。ちっぽけな私が、想像することが叶わない幾星霜を。
様々な生死が行き交う自然という箱の中で、私はあるモノを見定めようとしている。
あるモノ、それは死。

往年、私は死に対して、倫理的な概念よりも哲学的思想の解釈に富んだ――それも宗教色の薄い、なにより平均的な曖昧さを取り除いた――答えを求めていた。
なにも悟りを開くような人格者ではない私の見解など、個人的且つ主観的な解釈で十分に事は足りる。ただ私は、幼少期より引きずってきた問いに対して、決して長いとは言えない人生を中で垣間見た然るべき事実と、己にとって一番確かであろう己の感性と思慮を持ってその答えを出したい。
あの頃よりずいぶんと体は成長した。それに伴い、先人たちの残した知恵や学問によって知り得た知識は、私にとってはその為に在ったのだろう。いくようにも攪乱された世界で、未来永劫変わらないであろう死という概念。それを私は正面から見つめようとしている。

幾人もの哲学者、宗教者などが目指した頂。私にとっては、その頂に微塵の希望が無いのは重々と承知であり、それを裏付けるように一滴の水にも満たない多少の後悔が確実に私の中に内包されている。

死して尚、人類というものはその頂に手が掛からないものかもしれない。もしくは、文化的思想的欲求を満たす以上の価値というものは最もどこにも無く、頂に見えていたものに醜い幻想を抱いていた――――もしくは（この場合、私自身が単純且つ本能的に）死後の恐怖に人々は抗っているだけなのかもしれないのだ。

左手が触れた胸が熱い。なんと小さく自己満足な理由がここにあるのか。いや、私という個体に宿る精神も、結局は人として当たり前の不安に煽られているだけなのだろうか。

私は天を仰ぐように上体を反らした。

しかし、此処は木々に覆われた深い森である。微かに望めた青空は果てしなく遠くに感じられる。

見上げた瞳を貫く幾つもの木漏れ日に、まるで雲間から射す天使の階段から文字通り天使が地上へと降り立った様に思える。森特有の静謐な空気がそれを錯覚させるのか、それとも、不安に煽られた心が都合よく生み出す希望の幻にすぎないのかもしれない。しかし、この森に住むのが天使か悪魔かと聞かれれば、恐らくそれは後者なのだろう。視界いっぱいに広がる木々の隙間から数多の目がこちらを覗いて、不安に陥る意識を、身体を、森の奥へと引きずり込んでいくのだ。そのほうが森らしいと、私は考える。

だが、天使が悪魔と名乗ろうが、悪魔が天使を殺めようが、私にはどちらの存在にも大した差は感じられない。それこそ数多の宗教的思想を絡めた創造上の産物に過ぎないからである。そのどちらに問うたとしても、私の求める答えを持ち合わせてはいないだろう。

私は、人という名の果実。

イブでもなければ、騙しを働いた蛇でもない。
その時を求め、ただただ歩けば善いのだ。体を成しているこの確固たる精神――（私にとっては）が、私を至高へと導いてくれるのだから。
視界の隅、揺れた木の枝には鳥の影。その雄々しい羽が舞い上がった先に探す答えがあるのだろう――と、私は信じてやまない。
扱い慣れたはずの好奇心が、くすぶる探求心に油を注ぐ。
さあ、歩こう。
私は果実。
私だけの答えが在ると信じて。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3336p/

常世に落ちた果実

2010年12月6日04時22分発行